熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2026.1.13
第 314号
発行 入試・広報課

竹屋理事長「改革なくして成長なし」

2026年仕事始め式

教職員が集まった仕事始め式で、学内改革に向け意欲を見せる竹屋理事長・学長

2026（令和８）年の仕事始め式が５日（月）、1300講義室Lであり、竹屋元裕理事長・学長が「少子化時代を乗り越える経営改革」を掲げ、教職員に協力を呼び掛けました。

竹屋理事長・学長は、九州看護福祉大の公立化（令和９年度）による大学間の競争激化など本学を取り巻く環境が一層厳しくなるとの見方を示し「改革なくして成長なし」と訴えました。その上で、理事長就任時に掲げた改革の５本柱―①学部教育の再構築、②産官学連携強化による教育・研究の充実、③大学院、キャリア教育、通信教育の充実、④デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進、⑤教職員の人事制度・組織体制の新たな構築―を改めて提示。この中で、学部教育の再構築に向けた医学検査、看護両学科における教職員プロジェクトの実施、産官学連携センターやDX推進室の設置、「細胞検査士養成コース」の開設などを挙げ、学内改革に向けた「着実な歩み」を強調しました。

また、大学院博士課程の開設にも触れ、「文部科学省への申請に向けて着々と準備が進んでいる」と報告しました。

さらに、竹屋理事長・学長は、改革に向け「変わることを恐れず、現場を知る皆さんにアイデアを出してほしい」と要望しました。そのために、「最大多数が納得する改革計画の立案、風通しのいい組織づくり、ひとりひとりの能力が十分に発揮できる職場環境づくりを目指す」と決意を述べ、「今年はうま年。未来に向かって飛躍しましょう」と締めくくりました。

（NL編集部）

「脱皮の年」に順調な第一歩

2025年仕事納め式

2025（令和７）年の仕事納め式が12月26日（金）50周年記念館であり、あいさつに立った竹屋元裕理事長・学長は、へび年にちなみ「（大学改革に向け）脱皮した一年だった」と、行く年を振り返りました。

冒頭、竹屋理事長・学長は、改正私学法への対応について説明。改正法が求める運営基盤の強化、教育の質の向上、運営の透明化への取り組みや、新理事会・新評議員会の発足と自身の理事長就任（６月、学長兼務）の経緯にも言及しました。

また、新たに文部科学省に採択された「少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援補助金」関連では、リハビリテーション学科におけるJSPO公認アスレティックトレーナー（AT）養成コースの開設、公衆衛生看護学専攻科の設置など、年度内に達成した取り組みを披露しました。

一方で、竹屋理事長・学長が、改革の原動力としたのが、教職員による各種ワーキングやプロジェクトの開催や立案。教員制度に関するワーキンググループ（WG）では、医学検査学科と看護学科における分野制、看護学科における教育研究助手制度が次年度から導入を決めたことを報告しました。また、事務組織に関しても事務組織検討WGや職員有志による「クマホの未来創造チーム」の活発な活動を紹介。2025年を総括し、「三段跳びに例えるなら最初のホップ（第一歩）を踏み出すことができた」と評価しました。（NL編集部）

仕事納め式で、竹屋理事長・学長のあいさつを聞く教職員

全員で記念撮影する「話してみよう韓国語・歌ってみようK-POP熊本大会」の参加者

「歌ってみようK-POP」で優秀賞に輝いたmimicメンバーらと筆者（左）

寄稿

話してみよう韓国語・歌ってみようK-POP熊本大会

高い完成度に学生の成長を実感

リハビリテーション学科理学療法学専攻　申　敏哲教授

第16回「話してみよう韓国語・歌ってみようK-POP熊本大会」が12月13日（土）、熊本市中央区の熊本学園大学で開催された。同大会は、九州地域における日韓文化交流の発展を目的として継続的に実施されており、高校生から大学生、一般まで幅広い世代が参加する交流の場となっている。

筆者（申）は大会の共同委員長として企画・運営に携わってきた。熊本保健科学大学ではこれまでに２度、大会を開催。昨年度は第15回「話してみよう韓国語」を開催し、高校生や大学生、一般の参加者を得た。コロナ禍以前と比べると参加者数は減少しているものの、今回の大会では出場者一人ひとりの完成度が非常に高く、質の面で大きな成長を感じさせる内容であった。

中でも特に印象的だったのが、「歌ってみようK-POP大会」Cover Dance部門に出場した熊本保健科学大学のダンスチーム「mimic」の活躍である。赤松凜華さん、伊地知羽蘭さん、西田菜々子さん（以上看護学科３年）、三宅凜佳さん（作業療法学専攻２年）の４人は、表現力と完成度の高いパフォーマンスを披露し、優秀賞を受賞した。本学の学生が同部門で入賞するのは今回が初めてではない。２年前の大会では最優秀賞を獲得しており、日頃の練習と継続的なクラブ活動の成果が着実に実を結んでいることを示している。

これらの成果は、学生一人ひとりが主体的に努力を重ねてきたことに加え、本学が進めてきたクラブ活動への支援や国際・文化交流教育の積み重ねによるものだと考えている。K-POPや韓国文化を通して、学生たちが自信を持って自己表現し、成長していく姿には大きな可能性を感じる。

今後も熊本学園大学をはじめとする地域の大学や教育機関と連携しながら、日韓文化交流の推進と次世代人材の育成に引き続き貢献していきたい。

今週の1枚

おいしい!? クリスマス

爲近岳夫准教授（作業療法学専攻）が担当するスモールグループ（SG）のクリスマス会が、12月22日（月）、アリーナ隣のピザ窯付近で開催され、16人の学生が参加しました。毎年恒例の爲近SGクリスマス会は、学年を越えた交流の場として学生たちからも大好評です。会場には、ピザ窯で焼いた半熟卵入り焼きカレーや石焼き芋などが並び、学生たちは「めっちゃおいしい」。他のSG学生も飛び入り参加し、焼きマシュマロやウインナーを頬張りながら話に花を咲かせていました。（NL編集部）

県教委主催「学びの祭典」

高校生の研究支援 パネル発表に助言 安楽教授、井﨑教授

熊本県教育委員会主催の「学びの祭典」が12月20日（土）、益城町のグランメッセ熊本で開催されました。県立高校の生徒たちが日頃の研究成果を披露する本イベントに、本学は熊本サイエンスコンソーシアムの連携大学として参加。医学検査学科の安楽健作教授、言語聴覚学専攻の井﨑基博教授がステージ発表の評価委員を務め、専門的知見から助言を行いました。

また、パネル発表の会場には、大学コンソーシアム熊本に加盟する県内各大学の教職員が多く訪れ、生徒たちの熱心な説明に耳を傾けていました。本学からも多くの教職員が参加しました。会場には地域課題や環境問題など多岐にわたるテーマのパネルが並び、英語で堂々と発表したり、積極的に来場者へ声をかけたりする生徒たちの姿が印象的でした。

課題設定から分析、発信に至るまで、教科の枠を超えた高い能力と意欲を持つ高校生たちの姿に触れ、大学側としてもその意欲を継続・発展させる体制づくりの重要性を再認識する貴重な機会となりました。

（入試・広報課）

銀杏アラカルト

■１年間の労をねぎらい懇談

銀杏学園の忘年会が12月19日（金）、熊本市西区のザ・フォレストテラス熊本で開催され、114人の教職員が１年間の労をねぎらい懇談しました。竹屋元裕理事長・学長の挨拶で開会。その後は、新規入職者によるじゃんけん大会や、三代目西里ブラザーズによる圧巻のパフォーマンスが次々と飛び出し、会は大いに盛り上がりを見せました。（NL編集部）

終始和やかな雰囲気で進行した忘年会

本学の概要などの説明に耳を傾ける生徒たち

■天草高倉岳校の生徒来学　天草高校倉岳校の１、２年生19人が12月19日（金）、本学を訪れ、学内施設などを見学しました。1304講義室Mで行われた大学概要、職業紹介では、入試・広報課職員の流ちょうな説明に、笑い声があがる場面もありました。その後、アリーナや看護学科の実習室などを見学。生徒たちは終始いきいきとした表情で、大学生気分を味わっていました。（入試・広報課）

インフォメーション

週間行事予定（１月13日～１月19日）	
１/17（土）～18（日）	大学入学共通テスト